面シーサーの作り方

〈用意する道具〉

●ハサミ ●カッターナイフ ●ものさし ●ピンセット
●鉄筆やキリなど先のとがったもの（折り目をつける）
●つまようじ（細かいところに接着剤をつけるため） ●接着剤（乳白色の木工用接着剤）
●直径1cm くらいの丸棒（紙にまるみをつけるときに使います）

〈作るときのコツ〉

●カッターナイフを使うときは、厚紙などを下敷きにして、ものさしをあてケガをしないように注意して切ってください。
●折る部分（線）は、鉄筆やキリでみぞを引いておくと、きれいに折れます。
●カッターナイフを使うときは、厚紙などを下敷きにして、ものさしをあてケガをしないように注意して切ってください。
●紙にまるみをつけるときは、紙の裏側に丸棒をあてがい、指でおさえ付けるようにしてまるみをつけてください。そのとき、無理に紙をひっぱると破けてしまいますので、丸棒をころがすようにくせを付けていきます。
●太い切り線は、できるだけ内側を切るようにすると、線が残らず、きれいに仕上がります。
●接着部分は、ピンセットで折り目を付け、のりを付けやすいようにします。また、接着をする際は山折り、谷折りをしっかりしておいてください。

1. 顔と鼻を作る

顔(A-1)全体に丸みをつけます。
くちびるの部分は内側に折り込み写真のように接着します。

顔(A-1)のフチののりしろを内側に折り込み、左右の▲の位置をかどに合わせて接着します。
※顔の中心(両目の点線まで)を先に台座に接着し、左右片側ずつ接着するといいでしょう。

鼻(B-1)を組み立てる時、中心から先に接着。次に片側から接着するとキレイに見えます。

組み立てた鼻(B-1)を顔(A-1)の中心線の▲印に合わせて接着します。

目(A-3、A-4)はまるみをつけ接着。
目(A-3、A-4)のフチに接着剤をつけ、目のつなぎめを顔(A-1)のヒゲの端に合わせ、折り込んだ半円の部分に接着します。

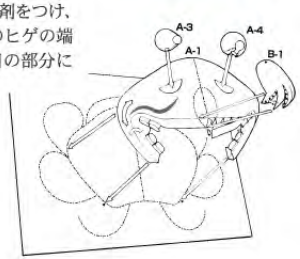
2. 頭と小鼻を作る

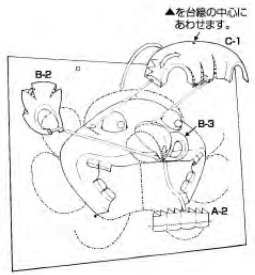
頭(C-1)全体に丸みをつけ組み立てます。

頭(C-1)を台座に接着する前に、頭(C-1)の中心と鼻(B-1)の中心と合わせながら、台座に接着するといいでしょう。頭(C-1)の両端は、顔(A-1)の目の横にある点線に合わせ接着します。

小鼻(B-2、B-3)は小さなパーツですので、ていねいにまるみをつけて組み立てましょう。鼻(B-1)に右小鼻(B-2)、左小鼻(B-3)をすき間ができないように接着させましょう。

前歯(A-2)のひとつづつにまるみをつけ、下３分の１位が見える位置に接着します。





3. あごと牙、ヒゲと眉を作る

あご(C-2)を図のように組み立てます。

顔(A-1)の下のあいた部分から差し込み台紙の点線に合わせて接着します。

牙(B-4、B-5、B-6)に丸みをつけておきます。

上牙(B-4、B-5)は上前歯(A-2)と上奥歯(A-1)との間に接着します。

ひげ(B-10、B-11)を組み立てます。
ひげ(B-10、B-11)を小鼻の横に接着しましょう。

眉(B-8、B-9)を組み立てます。
眉(B-8、B-9)を頭(C-1)に接着します。

左右の目(A-3、A-4)のバランスを眉(B-8、B-9)で整えてあげましょう。

〈指示線の種類〉

——————— この線は、切り線です。
――――――― この線は、山折りです。
・・・・・・・・・・ この線は、谷折りです。
—・—・—・— この線は、接着するときのアタリ線です。
（ここは折らないで下さい）

4. 巻毛、耳を作る

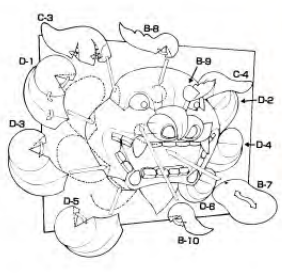
巻毛(D-1、D-2、D-3、D-4、D-5、D-6)のフチを三角に立つように折り、組み立てましょう。

頭と台紙の点線に合わせて上の巻毛から順に接着していきましょう。
※巻毛(D-1、D-2、D-3、D-4、D-5、D-6)は、それぞれ顔(A-1)のあたり線に合わせて台紙の破線に近づけてください。

舌は、▲印の裏側と下前歯にさわる部分の裏側に接着剤を付けて、口の中の中心に接着します。
フチの部分にもまるみを付けて舌らしく作りましょう。

耳(C-3、C-4)を組み立て、耳の先がはね上がるようにまるみを付けると、いきいきとした感じに仕上がります。
耳(C-3、C-4)を頭(C-1)の左右に接着しましょう。

付属のヒモを穴に通しセロハンテープで止めて、完成です。



面シーサーの完成です！